

# 中日ニュース

第二五八号 内容

特集

一九五八年ニュースハイライト

デフレ景気に賑う年の暮れ、せわしく行き交う人々の表情のようにめまぐるしかったこの一年も振り返りかえてみましょう。

西欧の植民地政策に反感を抱くアラブの民族主義が五月はじめレバノンに爆発、ついで七月にはイラクに引火して再度中東は大戦の危機をはらみました。

この年原子力潜水艦ノーチラス号は北極潜航に成功、その裏側の南極でパートアイランド号の援助も空しく我が南極観測隊は越冬に失敗。

然し、永田隊長を先頭に三たび白い大陸への壮途につきました。

今年はまだカラ梅雨の反面、皮肉にも秋には水魔が東日本を相次いで襲いました。

なかでも伊豆地方を襲った二十二号台風は多くの被害をもたらしました。

また南海丸の遭難に次いで全日航の遭難など、海と空の不幸な惨事もありました。

波乱の多かった国内政治では、誕生した第二次岸内閣が勤務評定の全国的な実施にのり出し、日教組も全組織を挙げてこれに対抗、和歌山、高知では流血の不祥事を見るにいたりしました。

こうして岸内閣えの日毎に高まる批判のなかで政府は「警職法」の改正案を提出。

このため世にいう「変則国会」の事態を招くなど議会政治の在り方が問題になりました。

また文化の交流もめまぐるしく、なかでもポリシヨイサドカスの熊のスターが子供た

ちの人気を独占、そうかと思うとロカピリーの教祖ポール・アンカも来日してロカピリ

ー旋風が日本のハイティーンを熱狂させました。

またスポーツではアジア競技大会が開かれるなど、なごやかな親善絵巻をくりひろげました。

そして菊がおる十一月、皇太子さまの婚約が発表、とかく暗いニュースの多かった今年のもっと明るい話題でした。

やがて一九五九年。

新しい年を近くして世界一高い東京タワーが完成しました。

展望台から見下す師走の東京、美しいマンモスタワーのかけに一九五八年も今静かに暮れようとしています。

道新アハ号

製作配給 東京中日新聞、中部日本ニュース映画社